

② 教育目標を教育課程の編成・実施に関連づけることに関して

教育目標は、児童生徒の学校生活全体を通して達成していく、わが校の教育目標であるから教育目標が、学校における諸活動全体の中に浸透していることが大切である。

したがって教育課程編成にあたっては、教育目標を年度の重点目標から、さらに学年目標、学級目標へ具体化したものを、各教科・領域の目標、内容と直接的に関連づけ、それをもとにして編成を図る。

教育課程の実施にあたっては、各教科・領域の内容とか、指導法の中で、教育目標と関連づけられるものは何かを吟味したうえで、活動計画とか指導過程のどこに、教育目標の何をどう組み込んで指導するかを計画し、実践する。

③ 教育目標の評価に関して

教育目標の達成度評価は、形成的評価もとり入れ、教育目標の具体化と因果関係的にとらえるようにする。

また、評価は学校のみでの評価に止まらず、児童生徒の自己評価とか、保護者による家庭での児童生徒の観察評価もとり入れ、評価結果が、できるだけ客観化されるようにすることが大切である。

そして、評価結果は年度末反省を待たずに、児童生徒にフィードバックさせて、児童生徒の行動面の改善に役立てるとか、教育目標具現化の改善とか、教育目標そのものの検討に役立てるようにする。

3. 今後の課題

教育目標を日常の教育活動にどう具体化しているかということは、学校現場に課せられたこれからの課題であろう。

本研究では、一応教育目標具体化の事例を提供したことになるが、各学校の実践によって、教育目標を最も効率的に具現する方途を模索し続けながら、学校経営の改善を図っていくことを望むものである。